

# リハビリ通信

第12・13号  
令和2年8月1日  
リハビリ通信担当発行

## 1. はじめに

新年度を迎えて最初の発行となります。本号から担当が変わりました。今年は当院リハビリテーション科に関する活動の報告や科内研修の様子、訓練室からの景色などを紹介していきたいと思います。当院や国立病院機構への就職を考えている方や関係者の方への情報提供だけでなく、見ていただいた方々の楽しみになるような発信をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## 2. 新年度

4月より新年度を迎え、リハビリテーション科も新体制で始動しました。4月には異動で配置されたスタッフ2名と新



入スタッフ1名、5月には育児休暇より復帰したスタッフ1名と新入スタッフ1名が加わり、PT15名・OT8名・ST3名・PT助手1名の合計27名で稼働することとなりました。

私たちは国立病院機構関東・信越グループに所属しており、毎年

の人事によってグループ内の他施設へ異動することがあります。そのため、年ごとに顔触れが変わる可能性があるため少し寂しい気持ちもありますが、グループ内で研修や見学などで交流はあるため、その際にかつての仲間たちに会うことができます。施設により病院の特性や地域性が異なるため、それぞれの情報を聞いて刺激をもらうことができるのは国立病院機構ならではのメリットだと思います。

当院に配属・復帰されたスタッフは、これから色々と慣れていくことに苦労するかと思いますが、チームで助け合って良いチームにしていければと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

### 3. 季節の行事（こいのぼり作り）

当院では患者さんに楽しんでもらうことを目的として、季節の行事を訓練の一環として行っています。

5月はこどもの日にちなみ、こいのぼり作りを行ってまいまし



た。こいのぼり（鯉幟）とは、男児の健やかな成長を願って鯉の形を模したのぼりを飾る古くからの風習です。患者さんには、スタッフが作成した紙製のこいのぼりにウロコを張ってもらう作業を



お願いしました。真剣な表情をして取り組む方もいれば、楽しそうに笑顔で作業を行う方もおり、1枚1枚ていねいに貼って頂きました。完成したこいのぼりは作業療法室の窓に飾らせてもらいました。宇都宮の空を泳いでいるようで、見ている人たちの励みや癒しになったのではないかと思います。

#### 4. 宇都宮農園

今年も屋上テラスの一角で野菜・花の栽培を始めました。今年はピーマン・ミニトマト・オクラ・きゅうり・かぼちゃ・なす・アサガオ・ハイビスカス・コスモスを植えました。



植物の栽培は園芸療法として訓練に利用されることがあります。効果としては、植物や自然とのかかわりを通して心身の回復や創造活動による意欲向上、生活改善などが期待され、その歴史は 1950 年代からと言われています。当院でも訓練の一環で患者さんに種まきや水やりなどを行ってもらいました。



参加していただいた患者さんの様子を見ると、育て方についてスタッフに教えている方や水やりを一生けんめいにしてくださる方など、とても生き生きと参加されており、スタッフ側も



見ている笑顔になるような光景がみられました。患者さんの中には、活動意欲の低い方が自ら園芸作業を行ってくれたり、普段眠っていることの多い方が目を開けたりするなど、私たちの予想以上の反応を示しており、自然の持つパワーはすごいとつくづく感じました。

6 月に入った頃には芽が出て花を咲かすものまで出てきました。これからの成長や収穫が待ち遠しいです。

## 5. リハビリテーション室からの風景

4月



桜の季節、筑波山と院内の桜が見事なコラボレーションを見せていました。男体山はまだ雪を被っており、手前の豊郷台に咲く桜と合わさってきれいな眺めになっていました。

5月



5月は天候に恵まれ、夏日を記録する日までありました。テラス内にはベンチが置かれていますが、歩行訓練を行った後に休息のために座ると日光連山がきれいに見えました。17時ごろに日が沈むと、日光連山が夕日を背にしてくっきりと影を現しました。

6月



6月からはテラスを夏仕様にしました。ヤシの木を置き、宇都宮農園に咲くハイビスカスで少し南国気分、といきたいところでしたが、今年は梅雨の雨が多くて晴れる日がありませんでした。ある日には茨城方面に竜巻のようなものも見えて、かみなりも多く少し荒れた天気でした。



それでも晴れた日には新緑が映え、真っ青な空と日光連山がとてもきれいでした。夕焼けがきれいに見えた日もあり、男体山に沈む夕日は時間を忘れて見入ってしまいました。



新型コロナウイルスの感染流行で暗いニュースが多い中、自然の景色は変わらず美しいままでした。窓の外をいろいろな角度で見ると意外な発見があり、気分転換になるかもしれません。私たちも感染症に負けず、身を引き締めて診療に携わっていきたいと思います。